

初夏園中即事

菊池三溪

梅時雨も喜ぶは只蝸牛

芭蕉上らんと欲して自由ならず

高知元身を置地非

家移して徐下る竹籬の頭

【作者】菊池三溪（一八一九〜一八九一年）（文政二年〜明治二十四年）幕末〜明治時代の漢学者。紀伊（きい）（和歌山県）の人。安積良斎（あさか）（ごんさい）にまなぶ。江戸の和歌山藩校明教館の教授をへて幕府儒官となり、將軍徳川家茂（いえもち）につかえる。明治のはじめ「大日本野史」の校訂にあたった。明治二十四年十月十七日死去。七十三歳。名は純。字（あざな）は子頭。別号に晴雪楼主人。著作に「東京写真鏡」「本朝虞初新誌」など。

【通釈】梅雨時に雨を喜ぶのは蝸牛だけ、芭蕉の葉に上ろうとするが思うようにゆかない。高い處はもともと身を置くのによい場所ではないので、ゆつくりと家を竹の籬のほとりに移している。